

ストックホルム・ケース (2018)

STOCKHOLM

メディア 映画

ジャンル ドラマ 犯罪 コメディ

製作国 カナダ/スウェーデン

色彩 Color

時間 92分

初公開日 2020/11/06

公開情報 トランスフォーマー

映倫 G

【キャッチコピー】

なぜ人質は、
犯人に
味方したのか？

【解説】

人質がいつしか犯人にシンパシーを感じていく“ストックホルム症候群”とよばれる心理現象の語源となった実在の銀行強盗立てこもり事件を、「ブルーに生まれついて」のロバート・バドロー監督とイーサン・ホークのコンビで映画化したクライム・ドラマ。事件の顛末と人質の心の軌跡を、ユーモアを織り交ぜた軽妙な筆致で描き出す。共演はノオミ・ラパス、マーク・ストロング。

1973年、スウェーデンの首都ストックホルム。何をやっても上手くいかない男ラースは思い余って銀行強盗を決断、銃を手に銀行に押し入る。幼い娘を持つ行員のピアンから3人を人質に取り、警察との交渉で犯罪仲間のグンナーを刑務所から釈放させることに成功する。続いて金と逃走用の車を要求するラースだったが、警察は彼らを銀行の中に閉じ込める作戦に出る。次第に長期戦となっていく中、人質のピアンカは、実は根は優しいラースに不思議な連帯感を抱き始めるが…。

【クレジット】

監督	ロバート・バドロー	Robert Budreau
製作	ニコラス・タバロク	Nicholas Tabarrok
	ロバート・バドロー	Robert Budreau
	ジョナサン・ブロンフマン	Jonathan Bronfman
	フレデリク・ザンダー	Fredrik Zander
製作総指揮	スコット・アヴァーサノ	Scott Aversano
	ジェイソン・ブラム	Jason Blum
	ウィリアム・G・サントール	William G. Santor
	ジョン・ヒルズ	John Hills
	アンドリュー・チャン＝サン	Andrew Chang-Sang
	パトリック・ロイ	Patrick Roy
	クリスティーナ・クバッキー	Christina Kubacki
	ウィル・ラッセル＝シャピロ	Will Russell-Shapiro
	ローウェル・コフィール	Lowell Cauffiel
	ジョン・マンケル	
	ハリー・スミス	Harry Smith
	ドン・ヘイル・J r	Don Hale Jr.

原作	ダニエル・ラング	Daniel Lang	
脚本	ロバート・バドロー	Robert Budreau	
撮影	ブレンダン・スティーシー	Brendan Steacy	
プロダクションデザイン	エイダン・ルルー	Aidan Leroux	
衣装デザイン	リア・カールソン	Lea Carlson	
編集	リチャード・コモー		
音楽	スティーヴ・ロンドン	Steve London	
出演	イーサン・ホーク	Ethan Hawke	ラーズ
	ノオミ・ラパス	Noomi Rapace	ビアンカ
	マーク・ストロング	Mark Strong	グンナー
	クリストファー・ハイアーダール	Christopher Heyerdahl	マットソン
	ベア・サントス	Bea Santos	クララ
	マーク・レンドール	Mark Rendall	エロヴ
	イアン・マシューズ	Ian Matthews	ハルステン